妊婦HIV検査（スクリーニング検査）で結果が陽性だった方へ

スクリーニング検査の陽性は「感染している」という意味ではありません。

Q 「陽性」というのはどういう意味？

一次検査の陽性は「HIV感染」を意味しているのではなく、「感染している可能性が完全には否定できない」という程度に理解してください。ほとんどの方は、このあとの二次検査でHIVに感染していないことが判明します。しかし、陽性の方の中には、ごくわずかですがHIVに感染している方も含まれています。

Q スクリーニング検査「陽性」のうち、実際に感染しているのは何人ぐらい？

スクリーニング検査陽性の方のうち、3%程度の方がHIVに感染しているといわれています。たとえば、スクリーニング検査では、10万人に150人の割合で「陽性」と出ますが、このうち、真の陽性者は4人です。150人のうち、146人は「偽陽性」（実際には感染していない）ということになります

Q なぜ、感染していないのに「陽性」と出るの？

理由ははっきりとはわかっていません。しかしHIV検査に限らず、ウイルスや細菌に感染しているかどうかを調べる検査は100%正確というわけにはいかないのです。
およそ1/10,000 というごくわずかな感染を見逃がさないためには、どうしても一定の「偽陽性」が生じることをご理解ください。

Q 感染している可能性がほとんどないのなら、わざわざ確認検査を受けなくても いいのでは？

可能性はほとんどゼロであっても、絶対に感染していないとは言い切れません。必ず確認検査を受けて、感染しているかいないかをはっきりさせてください。これはあなたのためだけではなく、お腹の赤ちゃんのためにも必要なことなのです。

感染していた場合に

- 感染に気づかないでいると
  - 赤ちゃんの約30%に感染する
  - お母さんの治療も遅れる
- 妊娠初期に感染がわかると
  - 赤ちゃんの感染をほぼ阻止できる
  - お母さんも適切な治療が受けられる

このような理由から、必ず確認検査を受けてください

確認検査の受け方

- 確認検査では、スクリーニング検査で陽性だった方を対象にHIVに感染しているかどうかを判定する精密検査を行います。
- 確認検査を実施していないクリニックや病院もありますので、その場合はスクリーニング検査を担当した医師が確認検査のできる医療機関をご紹介します。
- 確認検査の結果がわかるまでには、医療機関により１～２週間かかります。
- 確認検査の結果はご本人に直接お伝えします。

もし感染していたら

- 感染がわかったら、すぐに治療を開始します。治療法はめざましい進歩をとげました。現在ではきちんとした治療を受けていればエイズ発症を防ぎ、寿命を全うすることもできます。もう「HIV感染＝死に至る病」ではありません。
- 日常生活の中で、周りの人に感染することはありません。血液や体液の取り扱いに注意していただくほかは、今までと変わりなく生活することができます。
- 治療を継続し、HIVのウイルス量を検出限界以下にコントロールできていれば、性行為で感染することもありません。
- お母さんは妊娠中から、赤ちゃんは生後早期から４～６週間、抗ウイルス薬を服用します。
- 母乳からの感染を防ぐため、人工栄養（粉ミルク）を用います。

安心のサポート体制

HIV感染者の社会生活全般を支援するために、医療・福祉・保健分野でさまざまなサービスが用意されています。たとえば、福祉制度を利用すれば、医療費の負担を軽くすることができます。申請方法など詳しいことは、市区町村の担当窓口や病院のソーシャルワーカーなどが相談にのってくれます。カウンセラーを派遣してくれる自治体もあります。このほかにも、ボランティア団体・感染者の交流会などが、悩みごとの相談や情報交換の場を提供しています。

HIVについてのご相談は

・エイズ予防財団電話相談：（フリーダイヤル）　0120-177-812
（携帯電話から）　03-5259-1815

HIVについて知りたいときには

・エイズ予防情報ネット（API-Net）：
http://api-net.jfap.or.jp/
・「HIV感染妊娠と母子感染予防」研究班ホームページ：
http://hivboshi.org/

★この文書はインターネットからもダウンロードできます。
・「HIV感染妊娠と母子感染予防」研究班ホームページ
⇒マニュアル・ガイドライン
⇒「妊婦HIV検査（スクリーニング検査）で結果が陽性だった方へ」

編集/発行
令和６年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究」班（研究代表者：岩手医科大学・吉野直人）分担研究「多様な世代の国民向けHIV感染妊娠の情報啓発アプローチの実践と基盤開発に向けた研究」班（研究分担者：防衛医科大学校・高野政志）
〈問い合わせ先〉
〒359-8513 埼玉県所沢市並木3−2
防衛医科大学校産科婦人科学講座　高野政志
2024.06.10